

津市コミュニティバス運行事業に係る数値目標の設定について

1 運行に直接関わる取組の評価の概要

津市地域公共交通計画において、一般路線バス及び津市コミュニティバスの運行に係る取組については、市民の利用に直接関係する取組であることから、毎年度個別に評価することとなっている。

このうち、津市コミュニティバスにおいては、利用者数を確保しているかについて数値目標を設定の上、その達成状況を評価することとなっている。

一般路線バス及び津市コミュニティバスの評価内容

分類		評価の方法
一般路線バス	幹線	【サービス水準維持を拠点単位で確認】 ① 経路を確保しているか ■ 都市拠点と地域拠点を經由 ② ダイヤを確保しているか ■ 拠点が居住誘導区域内にある場合 - 毎日、おおむね 6 時～21 時・1 本/時の運行を居住誘導区域内で確保しているか（鉄道駅及び市内線も含めて一体的に評価し、鉄道駅が近隣にある場合は水準を満たしているものと評価する）※1) ■ 拠点が居住誘導区域外にある場合 - 毎日、おおむね 6 時～21 時・ピーク時 1 本/時・その他 0.5 本/時の運行
	準幹線	【サービス水準維持を路線単位で確認】 ① 経路を確保しているか ■ 市内及び市外の拠点間を結ぶ ② ダイヤを確保しているか※2) ■ 毎日、おおむね 6 時～21 時・ピーク時 1 本/時・その他 0.5 本/時の運行
	市内線	【サービス水準維持を幹線と一体的に確認】 ① ダイヤを確保しているか ■ 毎日、おおむね 6 時～21 時・1 本/時の運行を居住誘導区域内で確保しているか（鉄道駅及び幹線も含めて一体的に評価し、鉄道駅が近隣にある場合は水準を満たしているものと評価する）※1) ■ 複数路線重複の場合は、路線間で運行間隔の調整
津市コミュニティバス	支線	【数値目標達成度を確保】 ① 利用者数を確保しているか ■ 1 便当たり利用者数で確認 ■ ルート単位だけでなく地域全体でも評価 ※利用者数の目標値は、運行形態に応じて別途設定します。 ※再編実施後、必要に応じて目標を見直します。

※1) 「目標 1-(1) 居住誘導区域における利便地域の割合」の達成度を示す数値目標

※2) 奥津線は評価の対象外

2 数値目標設定の考え方

津市コミュニティバスは、主として買物や通院等の日常生活に必要な移動の確保を目的としているが、通学への対応を行っている地域もあり、利用実態は地域ごとに大きく異なる。

また、令和8年度の再編において、新たにリクエスト型（区域運行）の導入を予定しており、運行実績に基づき今後の取組を検討する場合についても、さらに利用を促進し地域交通として定着を図るべきルート（運行区域）から、運行規模の縮小や運行形態の見直しを必要とするルート（運行区域）まで、ルート（運行区域）ごとに効果的な取組も大きく異なる。

このため、数値目標については、1つではなく、段階的に評価できるように以下の2つの指標を設定する。

(1) 運行目標値

定時定路線型【1便当たり利用者数 4.7人】

リクエスト型【1日当たり利用者数 29.5人／運行区域】

現行のルートを、より多くの方に利用いただき、地域交通の1つとして定着させるために目指す指標。

◎ 根拠

津市地域公共交通計画において、津市コミュニティバス及びぐるっと・つーバスの利用者数の目標値を「104,000人／年」と設定していることから、この目標値を達成するために必要な利用者数を運行目標値として、下記のとおり設定する。

なお、計画の目標値のうち、津市コミュニティバスの目標値を「85,000人」、ぐるっと・つーバスの目標値を「19,000人」とする。

① 運行日数（令和8年4月～9月の期間で算出）で津市コミュニティバス全体の目標値を按分し、定時定路線型とリクエスト型のそれぞれの目標値を算出。

	定時定路線型	リクエスト型	合計
運行日数(日)A	944	497	1,441
目標値(人)B	55,684	29,316	85,000

定時定路線型 $85,000 \text{ 人} \times 944 \text{ 日} \div 1,441 \text{ 日} \doteq 55,684 \text{ 人}$

リクエスト型 $85,000 \text{ 人} \times 497 \text{ 日} \div 1,441 \text{ 日} \doteq 29,316 \text{ 人}$

- ② 定時定路線型は①の目標値を運行便数で除し、計画の目標値を達成するために必要な1便当たりの利用者数を算出。

リクエスト型については、予約の状況により1日の運行便数に変動があるため、①の目標値を運行日数で除し、計画の目標値を達成するために必要な1日当たりの利用者数（運行区域ごと）を算出。

	定時定路線型	リクエスト型	合計
運行日数(日/年)(A×2)※	1,888	994	2,882
目標値(人/年)B	55,684	29,316	85,000
運行便数(便/年)※	11,850		

※ 数値は令和8年4月～9月の運行内容から算出

定時定路線型 $55,684 \text{ 人} \div 11,850 \text{ 便} = 4.69\cdots \approx 4.7 \text{ 人}$

リクエスト型 $29,316 \text{ 人} \div 994 \text{ 日} = 29.49\cdots \approx 29.5 \text{ 人}$

【運行目標値】	
定時定路線型	リクエスト型
4.7人/便	29.5人/日（運行区域ごと）

(2) 運行維持基準値

定時定路線型【1便当たり利用者数 2.0人】

リクエスト型【1日当たり利用者数 12.6人/運行区域】

現行の運行内容を維持する上で達成すべき指標であり、未達成の場合は、減便等の事業の縮小を伴う見直しを検討する。

◎ 根拠

津市コミュニティバスの多くのルートは、地域公共交通確保維持改善事業費補助金（地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金）の交付を受けており、運行の維持には当該補助金の活用が必須となっている。定時定路線型の運行については、当該補助金において補助対象基準として設定されている「輸送人員÷運行回数で算出する1回当たりの輸送量が2人以上であるもの」という基準を参考とし設定する。

リクエスト型については、定時定路線型の運行維持基準値が目標値の約42.6%であることから、同程度の水準を設定することとし、「29.5人×42.6%≒12.6人」と設定する。

(3) 確認指標

リクエスト型については、利用実態や運行の効率性を把握するため、評価に当たっては乗合率についても確認することとする。

3 数値目標の運用

2つの数値目標の達成状況に応じ、以下のとおり取り組むこととする。

(1) 運行目標値を達成

定時定路線型【1便当たり利用者数 4.7人以上】

リクエスト型【1日当たり利用者数 29.5人以上／運行区域】

地域交通として更に定着するよう事業のPR等の利用促進を継続する。

(2) 運行維持基準値を達成、運行目標値を未達成

定時定路線型【1便当たり利用者数 2.0人以上4.7人未満】

リクエスト型【1日当たり利用者数

12.6人以上29.5人未満／運行区域】

運行目標値の達成に向け、利用者の意見を取り入れたルートの改善等を含めた利用促進を実施する。

(3) 運行維持基準値を未達成

①-1 定時定路線型

【1便当たり利用者数 1.0人以上2.0人未満】

地域公共交通あり方検討会等において、未達成のルートの現状や地域において担う役割について協議し、利用促進を実施するとともに、運行維持基準値の達成に向けた、減便等の事業の縮小を伴う見直しについて検討する。

①-2 リクエスト型【1日当たり利用者数 12.6人未満】

地域公共交通あり方検討会等において、未達成の運行区域の現状や地域において担う役割について協議し、利用促進の実施とともに、運行維持基準値の達成に向けた、運行時間の短縮等の事業の縮小を伴う見直しについて検討する。2年連続して運行維持基準値を達成できない場合は、当該運行区域における運行サービスの必要性を検証し、事業内容の見直しを実施する。

② 定時定路線型【1便当たり利用者数 1.0人未満】

地域公共交通あり方検討会等において、未達成のルートの現状や地域

において担う役割及び定時定路線型のコミュニティバスの運行がふさわしいかについて協議し、運行維持基準値の達成に向けた、減便等の事業の縮小を伴う見直しやリクエスト型への移行も含めた地域の需要に見合った新たな公共交通の導入について検討する。

- ※1 上記の区分によらず、各ルート又は各運行区域の運行サービスがより良いものとなるよう地域の意見等を取り入れながら、適宜、細やかな運行の見直しや、地域ニーズに応じた運行形態（定時定路線型・リクエスト型）の変更を実施する。
- ※2 数値目標については、運行形態の変更やサービス内容の改善状況を踏まえ、必要に応じて見直しを行う。
- ※3 運行維持基準値の達成が新たな公共交通の導入の検討を妨げるものではない。
- ※4 数値目標による評価に当たっては、各地域の人口等の地域特性を踏まえ、実情に応じて柔軟に評価を行うものとする。